

2019 年度 学校経営方針

芝浦工業大学柏中学高等学校

I 教育目標、5つの教育方針、目指す学校像

1 教育目標

建学の精神「創造性の開発と個性の発揮」にのっとり、自由な心と人への思いやりにあふれ、自然を愛し、家庭・社会・人類に対する責任を進んで果たす豊かな人間性をそなえた青年を育成します。さらに、自分の個性を最大限にいかし、この世界に新しい文化を創り出し、広く社会に貢献する有能な人間を輩出することを目標とします。

2 5つの教育方針

教育目標の達成のため、生徒一人ひとりを大切に、個としての人間的成長と主体的に生きる力・学ぶ力を伸ばし、かけがえのない自分というものの存在を自覚させます。このため、以下に5つの方針を掲げます。

- (1) 創造性の教育:一人ひとりを大切に、生徒の可能性を発見して育てる教育を行います。
- (2) 主体性の教育:こころざしを育て、視野を広げ、関心を高めることによって生徒の主体性を重視した教育を行います。
- (3) 生きる力の教育:創意ある充実した授業で真剣に学び、厚みのある学力を身に付け、多様な進路を選択できる教育を行います。
- (4) 感性の教育:多様な価値観と出会い、多面的なものの見方を身に付け、感性・直感力を磨く教育を行います。
- (5) 健康と安全の教育:生徒の成長に応じた適切な体力づくりを図り、リスクに積極的に対処する姿勢を養う教育を行います。

3 目指す学校像

本校は進学を重視する一方で、成長に応じルールやマナーについて考えることにより規範意識を育て、地域に愛される学校を目指すとともに、創意ある授業を通して生徒に幅広い視野と教養を身に付けさせ、学校行事、生徒会・委員会活動、部活動などを通して、「創造性の開発と個性の発揮」の教育目標を担うにふさわしい健康的で人間性豊かな生徒の育成を目指します。

このため、授業はもとより人生を豊かにする特色のある行事や体験を数多く織り込み、伝統や校風などを生かす仕組みも大切にします。

(1) 伝統の継承

本校校法人の創立者有元史郎は、「社会的活動の意義を体得させる特色ある教育を行い、以って社会に貢献する」とし、実学志向の教育理念をかかげて本大学の前身、東京高等工商学校を創立しました。ここに創立以来連綿と受け継がれてきた、クリエイティブな教育理念の淵源があると考えます。思い切り個性を伸ばして新しいものを自分の考えで創り出すというクリエイティビティの伝統が、本校の教育活動の中にくまなく行きわたり内外に光り輝く学校を目指します。

(2) 自己実現への支援

本校の教育理念は、生徒の自己実現を究極のねらいとしています。したがって、希望の進路に進むことだけが目的ではありません。どんな人間になりたいのか、どう生きたいのか、そしてどのように社会貢献したいのか等、人生上の課題を生徒に投げかけ、生徒の人生観や世界観をみがくことを大切にします。

そのために生徒が自ら「育つ」教育環境を重んじ、様々な教育活動の中で、自分で考え、判断し、発言し、責任と自覚のある行動をとるよう指導します。また、長期的総合的な進路指導計画に基づき、生徒がグローバルな視点で進路を拓くことができる学校を目指します。

4 自己実現を達成するための観点

(1) カリキュラムの基本構成

- ① 中学校から(中高6か年):中高6か年を2年ごとに分け、「ホップ・ステップ・ジャンプ」の3段階で進路実現を目指します。

ホップ期は中学1,2年にあたり、国数英を中心に基礎学力を養成し、学習習慣と意欲を身に付け、学力の土台を根付かせます。教科外として、環境理科教育としてのグリーンスクール、文化祭や運動会、博物館見学、語学研修等があります。

ステップ期は中学3年、高校1年にあたり、自分の「夢」を目標という具体的な形にします。様々な学校行事や生徒活動において、「サイエンス、グローバル」の教育テーマの仕上げを行う時期にも充てます。また高校1年生末には、国数英でバランスのとれた学力をつけ、文系・理系という自らの進路を選択します。教科外として、中学3か年のまとめとして、中学3年生において、海外研修があります。

ジャンプ期は高校2,3年にあたり、文理に分かれて自分の目標の通過点である大学受験に向け、特に高校3年生において、受験科目に合わせた学習を展開します。教科外として、高2 オーストラリア海外研修等があります。

- ② 高等学校から(高校3か年):併設中学校からの連絡進学生(中入生)と高校からの入学生(高入生)は、英数国理の授業進度が異なるため1年次のジェネラルラーニングクラスでは中高別クラス編成とし、高入生は月から土まで毎朝25分間のモーニングレッスンで英・数・国・化をより多く学習し進度を合わせます。一方、選抜者で構成されるグローバル・サイエンスクラスは中入・高入混合編成とし、高入生には数学のみ補習を実施します。

2年次に文系・理系に分かれるところでジェネラルラーニングクラスでは中入生と高入生を混ぜ、数学の一部の科目で習熟度別の授業とすることで、きめ細かい学習指導を行います。

3年次には、各個人の進路に合わせたきめ細かい選択コースを多数展開し、進路目標の実現をはかります。

(2) 進学コースの設定と取組

<高等学校>

- ① 2015年度より高校1年生に、中学からの連絡進学生の希望者と高校入学生の希望者から成績優秀者で構成された「グローバル・サイエンス(GS)クラス」1クラスと従来のカリキュラムをより洗練させた「ジェネラルラーニング(GL)クラス」6~7クラスの2コースを設置しています。
- ② GSクラスは、東大などの難関国立大での研究や学問をし、日本や世界に貢献する人材を育成することを目的に、能動的な学修などを取り入れながら高度な授業内容を目指します。2時間の特設時間において、これまでのシボウサイエンスクラスの実績をもとに、数学と理科の他に人文の課題研究を行うとともに、英語で論理的に書く力を育てます。GLクラスは、補習の強化などにより、主要5教科の苦手をつくらず、国公立大合格に対応できる学力の育成を目指します。

<中学校>

- ① 2016 年度より、中学校でもグローバル・サイエンスクラスを設置しています。発達段階を考慮しながらも、モーニングレッスンでの、クラス横断による習熟度別授業の他、入学試験時の英語試験で英検 3 級以上の英語力があると認められた生徒に対し、特別クラスを編成しています。
- ② グローバル・サイエンスクラスは、入試段階において成績上位者を選抜し、その後は一部入れ替えながら高校のグローバル・サイエンスクラスの準備段階として位置づけます。

(3) 主体的に「学び続ける生徒」を育てる特色ある教育活動 ～グローバルとサイエンス～

能動的な学修を実践することにより、自ら「学び続ける生徒」を育て、グローバル、サイエンスという二つの分野による特色ある教育を充実させます。中学校では、一人一台のタブレットPCを持ち、さまざまなプレゼンテーションや全国中学高校 Web コンテストへの参加など、主体的に学ぶ生徒を育てます。高校でもこうした機会を多く設定します。また、PCを用いた Web 学習システムを導入し、主体的分析的に学習する生徒を育てます。

グローバルの核となる英語教育では、4技能を重視したコミュニケーション重視の英語教育を行います。また中学3年生では、生徒全員によるグアム海外研修(2019 年度)を実施予定であり、そしてニュージーランドの短期留学・ホームステイ(2020 年度以降)を計画し、英語を使った海外体験を行います。さらに高校 2 年でのオーストラリア海外研修(2021 年度まで)において、一層の英語運用力を育てます。他方で中3～高2での希望者による英国、アメリカの短期研修、オーストラリアのホームステイの他、海外の大学へ進学を志す生徒への支援などを行います。

サイエンス教育としては、中学校では、南会津に所有する「芝浦創造の森」を中心として活動するグリーンスクールでの自然環境学習から、研修先での環境学習体験などで、地球環境についての関心や態度を育てます。また、高校ではスーパーサイエンスハイスクール(SSH)の活動を中心に、グローバル・サイエンスクラス、ジェネラルラーニングクラス(課外)における特別な理数教育を行い、理系に強い生徒を育てます。また、理系女子を育てる試みや高大接続教育などを芝浦工業大学と連携して行います。

II 中期目標と方策

1 授業方法、学習評価の研究と新教育課程の作成

2021 年度入試から予定されている「大学入学共通テスト」や英語などの入試改革において、4技能型の民間の資格・検定試験を活用する方針が打ち出されている現状を踏まえ、現行の教科・科目の枠を越えた「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を育てるために、これまでの時間割やカリキュラム、授業内容を見直し、難関大学などをはじめとする進路実現の方策を進展させます。

- (1) 各教科会を統括する教科主任会議と進路部が連携して、能動的な学修をはじめとする授業方法を研究し、生徒がより深い理解力を身に付けるような授業実践を増やします。
- (2) 生徒の自学自習、主体的で協働的な取組が学力定着・向上に結実するように、2017 年度に作成した「SK 学習ルーブリック」の有効な活用方法、様々な「勉強の仕掛け」や「学力を伸ばす仕組み」を各学年会、各教科会で検討し、実施します。
- (3) 学校行事を精査し学習効果がより高まる年間日程表を作成し、計画的な学習進路指導の強化に努めます。
- (4) グローバル・サイエンスクラス、ジェネラルラーニングクラス各々に適した授業を行い、確実な学力の定着を目指します。
- (5) 2022 年度より実施される高校の新学習指導要領に向け、本校の教育目標に合った新たな教育課程を作成します。

2 進学実績の向上

難関・有力大学への合格を確実にするため、以下の受験力向上システムを整備します。また、個々の進路に合わせたカリキュラム選択をより充実させるとともに、戦略的なクラス編成を工夫するなど、各学年会が進路部の支援を得ながら生徒個々の受験力について分析し、教科会と連携して受験力の向上をはかります。

- (1) 自立的な学習者を養成するシステムを学校全体で共有します。センター試験の合計得点率が受験者平均で 80%となる受験力を獲得できるシステムを整備します。教科得点率は、国語・数学・英語の主要教科で 80%、理科・社会の選択科目は 70%台後半を目標とします。また 2021 年度入試から実施される大学入学共通テストにおいても、同等のレベルを目指します。2020 年度入試以降、東大現役 3 名、東大レベル(東大、京大、国立医学部など)5 名、早慶現役 65 名、千葉大 15 名、早慶上理 GMARCH 国公立1校以上合格率 65%を実現します。
- (2) 進路部を中心に進学指導ノウハウを積極的に、教員をはじめ生徒・保護者にも発信し、学校全体での共有をはかります。
- (3) 学力向上策の具体化に力を入れ、特に能動的な学修につながる研究を行います。学習スキルの指導、試験に対する事前事後指導、WEB によるビデオ教材の導入を通じ、反転学習など、生徒自らが自己分析を行い、目標に向かって学ぶ仕組みを作ります。
- (4) 能動的な学修や反転学習、英語4技能の習得など、教育改革の動向に合わせ、2020 年の大学入試改革(2021 年度入試)に対応するように、教員研修に努めます。
- (5) 学力到達のチェックは、「ホップ・ステップ・ジャンプ」3 段階の節目において詳細に行います。また、内部評価では進路部、学年担任団が連携して模試などの成績分析を行い、学力向上の取り組みを総括します。

3 グローバル教育の展開

情報技術の急速な進歩による世界の一体化のなかで、異文化理解をしながら活躍できる人材の育成を目指します。

- (1) 英語教育において「聞く・話す・読む・書く」の 4 技能を育てる中で、特に「聞く」「話す」機会を多くするようなカリキュラムの構築を目指します。
- (2) 英語の運用能力を高める海外での体験を増やします。中学においては、中3生徒全員を対象としたニュージーランドの短期留学・ホームステイ、高校においては、希望者によるイギリス、オーストラリア、カナダ、アメリカへの短期ホームステイを企画します。また、芝浦工業大学への推薦生を対象とし、カナダ、ニュージーランドの語学研修、タイでの国際PBL(問題解決学習)活動への参加を展開します。
- (3) イギリス、オーストラリアなどの大学のアドミッション担当者と直接連携し、校内で説明会を開いて海外大学への進学を促進します。

4 スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の取組

本校は、2004～2008 年度[第 I 期]、文部科学省の「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」の指定校となり、その後、再度 2018～2022 年度[第 II 期](5 年間)の指定を受けることができました。

- (1) 高校1、2年に学校設定教科としておかれている「SSC」において、理数系だけではなく、社会科学・人文科学系のテーマをも含む、生徒が主体的に取組む探究型教育を実践します。
- (2) 科学部を中心に、先端研究者を目指す生徒を育成し、積極的に発表の機会を得て、全国レベルの実績を収めるように努めます。

- (3) 芝浦工業大学との連携を活かし、理系女子を育成する企画を展開します。
- (4) 中高一貫理数探究プログラムの開発を目指します。
- (5) SSH 活動において、ルーブリックを用いた評価法の研究を行います。
- (6) スーパーグローバル大学(SGU)である芝浦工業大学の海外協定校との高大4校連携相互交流プログラムを展開し、グローバルに活躍できる理数系人材の育成をします。

5 中高大接続教育の充実

法人本部、「中高大連携推進検討委員会」などと連携して、芝浦工業大学との中高大接続・連携教育の充実をはかります。

- (1) 芝浦工業大学への関心を高めるよう、6～7月に行なわれる全16学科説明会に、高1、高2、高3希望者を参加させ、各学科の特徴や研究内容への興味関心を喚起し、高2・高3での大宮、芝浦、豊洲キャンパス見学参加につなげます。また、芝浦工業大学卒業生OB・OG講演会などを通じて、芝浦工業大学への進学意欲を高めます。
- (2) 男子生徒とはまた違った進路選択を行う女子生徒向けに、ロールモデルを示しながら、より深い進路研究の知識と方法を得られる講演会や公開講座を開催します。
- (3) SSHの課題研究、科学部の活動、Web コンテストの探究活動などにおいて、芝浦工業大学の教員、学生の指導やアドバイスを積極的に受けられる態勢を構築します。

6 広報活動の充実と入試改善

教育活動の内容を積極的に広報するシステムを構築し、さらに中学においては、新たな入試内容や方法を工夫・改善します。

- (1) 学校案内やホームページを常にリニューアルし、本校の教育内容、進学実績を分かりやすく明示します。
- (2) SSHの活動を核として探究型の実践が増える中で、それらの広報を通して、中学入試において広範に優秀な受験層の獲得を目指します。
- (3) 毎年度、入試日程、入試回数、出題傾向を検討し、塾・保護者に対し迅速に公表します。

7 防災体制の充実

学校法人災害危機管理規程(2012年4月1日施行)に基づき、柏キャンパスにおける防災体制の充実をはかります。

- (1) 「柏校舎災害危機管理基本計画書」及び「生徒用防災マニュアル」に基づき、防災訓練を適切に実施します。
- (2) 防災用品の充実と使用時の効率化を考え、管理体制の向上をはかります。
- (3) 基本計画書に基づき施設設備の要改善箇所を提言し改修します。

8 周年記念事業の実施・計画

2019年度に迎える柏高等学校創立40周年に向けて、2015年度に立ち上げた記念事業委員会を年2回開催し、事業内容の検討を行い、そこでの審議に基づき、記念事業を実施します。

- (1) 2019年度は、同時に柏中学校創立21周年にも当たり、柏高等学校40周年と併せて記念事業の内容を検討してきました。2016年度から2018年度までの3年間をかけて記念事業内容を検討したことに加え、2019年度は具体的なスケジュールに基づき、記念講演会、式典、祝賀会を実施します。
- (2) さらに2029年度の創立50周年を目指して、記念事業の実施に向けて財源を確保すべく、PTAに積み立てをお願いするとともに、同窓会にも協力を依頼します。

III 2019年度教育活動の重点目標

1 学力の充実・向上

- (1) 授業見学や教科内を中心とした相互交流によって授業力の向上をはかり、個々の生徒の授業に対する満足度を高めます。
- (2) 個々の教員の作問力を向上させることで、定期考査を通じての学力増強をめざすと同時に、考査の厳正なる実施に努めます。
- (3) 中学校舎教室に続き、高校1・2年生教室のホワイトボードへの取り換えを終了、プロジェクターと連動した効果的な授業内容の創意工夫に努め、快適な学習空間づくりを促進します。

2 学習・進路指導の充実

- (1) センター試験において5教科7科目受験する国公立希望者140名、平均点75%を目指します。マークカードの利用やセンター対策講座の他、2021年の共通テストに向けた研究をすすめて、生徒にフィードバックします。
- (2) 学習ルーブリックを活用し、成績との相関を調べて生徒にフィードバックします。家庭学習と連動した授業での学習を意識し、自立した学習者を育てます。
- (3) スタディサプリを活用し、自学自習をすすめる他、ポートフォリオについて中1から高2までeポートフォリオを作成します。
- (4) 英検やGTECなどを学校として推進し、生徒の状況について、担任や学年団が把握し、助言できる環境を作ります。
- (5) 高校1、2年生を中心に、キャリア教育を推進し、大学の志望学科などについての探求が進むようにカリキュラムを検討します。
- (6) 理系に進学する女子を増やすために、さまざまな方策を検討し、イベントを実施します。
- (7) 学習ガイダンスと進路の手引きを見直し、継続して生徒が学び続ける力を発揮できる体制を構築します。

3 生徒活動及び生徒指導の推進

- (1) 電車やバス、駅などの公共の場で、自分たちのことだけを考えるような行動を慎み、周囲に迷惑をかけないしっかりとした行動ができるように、教員の協力のもとホームルームをはじめ全校集会や学年集会などで指導を行います。
- (2) 学校生活を通して、生徒が自立的、積極的に行動できるよう、生徒会や委員会、部活動などで指導、助言を行います。
- (3) 学校生活における基本的な行動指針を生徒に示し、学校生活にふさわしい生活態度がとれるよう、またしっかりとした学校生活を送ることができるように指導を行います。

4 健康な学校生活の推進

- (1) 生徒および教職員の健康診断結果に基づき、すみやかに検査や治療の勧告をします。インフルエンザ、麻疹などの予防接種を推奨します。養護教諭による保健指導、AED・心肺蘇生法・エビペンの講習会を引き続き実施します。

- (2) 「食育」を継続して推進します。カフェテリアの業者と協力しメニューが生徒の健康と安全に配慮したものになっているか確認していきます。また、学校内で販売している飲料に関しても同様に確認していきます。
- (3) 相談室「クオレ」において生徒の学校生活への適応や、教員・保護者の対応を支援します。引き続き教員向けの研修会や事例検討会を実施します。
- (4) 中学生の「心の教育」を推進し、豊かな心を育てる学校を目指します。

5 情報教育の推進

- (1) 統合型校務支援システムの導入を大学との連携を視野に入れ、次年度には運用を開始します。
- (2) 高校棟にワイードを設備し、夏には無線 LAN を高校棟、ホール棟に導入します。
- (3) 教員系メールにおいて、Gmail(メールソフト)への移行を実施し運用を開始します。

6 多様な進路実現・能力開発にむけてのコース・カリキュラム選択

- (1) 種々の進路行事や面談などの場を経て、生徒が自分の希望の進路を見出すうえでの支援を行うとともに、それを実現するためのカリキュラムやコース選択を提示しその実現へとつなげます。
- (2) 高大連携改革の方針により、今後の大学入試における総合型選抜・学校推薦型選抜に対応し、「主体性・多様性・協働性」などを育むとともに、各自の portfolio での記録を促すなど、多様な入試方式に対応する幅広い学力の錬成を促します。
- (3) 基本的な知識・技能を集積するだけではなく、それらを連関させて思考・判断・表現につなげるなど、試験・入試のための学力ではなく、社会で活躍・発揮できる能力の開発・定着を目指します。
- (4) 中学を含めて、各クラスが活性化するクラス編成を検討します。
- (5) 種々の英語検定講座などを通じて英語4技能の能力を高めるとともに、外国の文化・価値観や国際的な問題を理解して、さまざまな場で活躍できるグローバルな人材育成に努めます。

7 読書習慣の形成と視聴覚教育の推進

- (1) 生徒がより読書に意識的に取り組むよう、図書室の閲覧環境などの改善をはかるとともに、様々な読書を促す取り組みを実施します。
- (2) 質の高い本物の芸術を鑑賞する機会(本年度葉を古典芸能)を設け、豊かな感性を養います。
- (3) ICT 化を進めて視聴覚・情報機器を活用しやすくし、中学棟、高校棟のワイードの活用など、より効果的な授業支援環境の整備をはかります。

8 「家庭と学校」「地域と学校」の連携及び安全の推進

- (1) 防災、危機管理の体制を再検討し、災害時の避難連絡体制、防災訓練を年2回行うことを定着させ、より有効な防災備品の追加、備品管理場所の確保などを行い、非常時に円滑に行動できるように全教職員、生徒に周知徹底をはかります。
- (2) PTA、同窓会との連携を図り、諸活動の活性化を促します。
- (3) 式典は厳粛で、生徒保護者に満足されるように、行事は効率的かつ一体感をもって安全に運営します。

9 入試広報活動の充実・募集形態の研究

- (1) 学校説明会において本校が望む生徒像をアドミッションポリシーに従って明確に示し、また入試形態を簡潔に説明していきます。
- (2) 本校の教育理念を明確にし、本校の教育の特色をわかりやすく盛り込んだ学校案内を5月までに作成し広報活動に生かします。
- (3) SSH活動などのサイエンス教育や海外研修や短期留学をはじめとするグローバル教育、また探究活動をはじめとする本校の教育の特色など、外部にPRすべき内容を精査し受験生獲得に向けた広報活動を実施します。

10 事務室によるハード・ソフト両面にわたる学校運営支援体制の深化

- (1) 一部老朽化の進む施設・設備について、必要に応じた迅速な修繕・改修を施すことで、教育環境の維持・美化に継続的に努めます。なお、状況を十分に把握し、法人関係部課とも協議した上で、修繕・改修時期に関する的確な判断を下します。
- (2) 学年主任会・教科主任会との連携を密にすることで、各会から上がってくる事務関連諸提案や要望に関する検討を迅速に行います。
- (3) 高校棟普通教室への超短焦点プロジェクター付ホワイトボードの設置を完了させるのみならず、ホール棟内の教室への早期設置に向け、法人関係部課との折衝を重ねます。また、無線 LAN の校内全域整備を鋭意進めます。
- (4) 2年目となるスーパーサイエンスハイスクール支援事業に付随する諸事務を、研究部と連携して正確かつ確実に進めます。

11 生徒の理解が深まる授業・研修活動の充実

- (1) 主体的・創造的な学習活動や ICT 教育を推進するために、全教員・教科会の活動の強化をはかり、相互の協力を通じて授業力向上に努めます。
- (2) 授業アンケートを活用して、生徒が求めている授業への視点を活かして、授業改善に取り組みます。
- (3) 「SK 学習ルーブリック」を基に、各教科の評価基準に即した観点の設定を試みるなど、生徒が各自の学習参加の現状分析や課題の提示ができる環境づくりに努めます。
- (4) 高大接続改革や新カリキュラムの開始を踏まえ、今後求められる学力観を理解し、それらを養える授業づくりのための研究を進めます。
- (5) 生徒の日常の学習状況がはかれ、また生徒の学習の指針となる定期試験の作問を心掛け、また教科会においても作問力向上につながる取り組みを目指します。

12 ホームページを中心とした広報活動の充実

- (1) “Web First”をテーマとして、学校パンフレットの連携とともにホームページをより充実します。
- (2) グローバル・サイエンスクラス・SSH の情報や取り組み、成果をホームページを通じて広く伝えます。
- (3) SNS による情報発信を推進していきます。

13 スーパーサイエンスハイスクールとしての実践の充実

- (1) 探究特設授業、中高一貫探究プログラムの教育課程の開発を行い、CSC (Creative, Studious, Communicative) 能力の育成をはかります。
- (2) 課題研究の指導法、評価法を研究し、共有します。また、教員対象の指導研究会を実施します。
- (3) ベトナム FPT 高校サイエンスツアー、芝浦工業大学や千葉大学留学生との交流を実施し、グローバル人材の育成をはかります。
- (4) 芝浦工業大学と連携して、先取り授業や理系女子育成プログラムを実施します。また、外部諸機関と連携して、他大学・研究所見学、特別講座を実施します。

(以上)